

神性のしるし



Signs of Divinity

ヨハネによる福音書11:25～26

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」

2024.10.12 2024 Hajime Taniguchi

キリストの神性と人性



⇒各時代の希望

➤ 1章（希望への光 P.677）キリストの神性は人性によっておおわれ、目に見えない栄光が目に見える人間の姿によっておおわれた。

➤45章（同 P.884）キリストは、王冠と王衣を脱ぎ捨てて王座から下り、人性をもって神性をおおわれる前から、その心をひき裂く悲しみ、ご自分に浴びせられる侮辱、耐えねばならない欠乏の一つ一つを、はっきりごらんになっていた。

➤48章（同 P.897）イエスはご自分の神性を人性で包んでおられたが、この奇跡を通してキリストの栄光があらわされた。

⇒患難から栄光へ

➤14章（同 P.1406）キリストは人類に近づくために人間性をとられた。この世に救いをもたらすためには、神性と人性をとられた救い主が必要であった。

⇒実物教訓

➤ 1章（希望への光 P.1193）神性が、人性の中に啓示されたのである。目に見えない栄光が、人間の姿の中にあらわされた。

➤11章（同 P.1232）キリストは、今日、あがない主であると同様に、世の始めからのあがない主であられたのである。イエスが、人性によって神性をおおってこの世に来られる以前に、福音の使命はすでに、アダム、セツ、エノク、メトセラ、ノアによって伝えられたのである。

➤19章（同 P.1278）そのためにキリストはこの世界にこられ、神性に人性をまとい、不義な者のために、義なるご自身の命をお与えになった。

➤27章（同 P.1338）宇宙の王座にすわっておられるキリストの中には、神性と人性が結合しているのである。



真のしるし（各時代の希望 第44章 / 希望P.882）

キリストが行われた奇跡の1つ1つは、キリストの神性のしるしであった。

イエスは、メシヤについて予告された働きをしておられたが、パリサイ人にとって、こうした憐れみのみわざはまことに不愉快だった。ユダヤ人の指導者たちは、人間の苦しみを冷酷な無関心をもってながめた。多くの場合、キリストがやわらげてくださった苦しきは、こうした指導者たちの利己心と圧迫から生じたものであった。だからキリストの奇跡は、彼らにとって一つの譴責であった。

☑ イエス・キリストの神性のしるし(=Signs of Divinity=神性の徴)

イエスは父なる神の力(→使徒10:38)を自分の中に持っていて、その力を使って、自らの権威のもとに奇跡(奇蹟)を行った(→ヨハネ5:30)。

➡ イエスは自分の行う奇跡を神の主権の到来(神の約束の実現)を告げるものとしていた。

➡ ヨハネは威厳のある、はっきりとした言葉を使って、イエスの神性を記している。



[ヨハネによる福音書1:1~3、14] 初めに言(カシコイモノ、λόγος：ロゴス、イエス・キリスト)があった。言は神と共にあった。言は神であった(→イエス・キリスト=神性)。²この言は、初めに神と共にあった。³万物は言によって成った(造られた)。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。¹⁴言は肉(→人性)となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

ヨハネによる福音書6:15

イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでまた山に退かれた。

湖の上を歩く(ヨハネによる福音書6:16~21)

夕方になったので、弟子たちは湖畔へ下りて行った。そして、舟に乗り、湖の向こう岸のカファルナウムに行こうとした。既に暗くなっていたが、イエスはまだ彼らのところには来ておられなかった。強い風が吹いて、湖は荒れ始めた。

二十五ないし三十スタディオンばかり漕ぎ出したころ、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて来られるのを見て、彼らは恐れた。

イエスは言われた。「**わたしだ**。恐れることはない。」



そこで、彼らはイエスを舟に迎え入れようとした。すると間もなく、舟は目指す地に着いた。



イエスの奇跡(聖句)から分かる、その神性

★湖の上を歩く

☉ヨハネによる福音書6:20

イエスは言われた。「**わたしだ** It is **I** (→ **ἐγώ** egō, eg-o' : エゴウ [ギリシア語] = 直訳: **わたしはある**)。恐れることはない。」

☉マタイによる福音書14:27

イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心なさい。**わたしだ** **I** (→ **ἐγώ**) it is 。恐れることはない。」

☉マルコによる福音書6:50

皆はイエスを見ておびえたのである。しかし、イエスはすぐ彼らと話し始めて、「安心なさい。**わたしだ** it is **I** (→ **ἐγώ**)。恐れることはない」と言われた。

★アブラハムが生まれる前から「わたしはある」(ヨハネによる福音書8:58)

イエスは言われた。「はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から、『**わたしはある** **I** (→ **ἐγώ**) **am**。』」

→神の子イエスが人間として生まれながら、真の神の子でもあるのは、初めから神と共に存在しているからである。

★モーセの召命(出エジプト記3:14)→「**わたしはある**」=神が燃える柴の中から明かした神ご自身の名 **神**はモーセに、「**わたしはある**。わたしはあるという者だ **I AM THAT I AM**」と言われ、…『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」

→ **אֲנִי** hâyâh, haw-yaw: ハヤツ(ヘブライ語) = わたしはある者である、わたしは存在させる者である 等

聖書に登場する「わたしはある」(5聖句に7回)



タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250 <わたしはある>7個] 聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : わたしはある]
出エジプト記	3:14 神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『 <u>わたしはある</u> 』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」
ヨハネによる福音書	8:24 だから、あなたたちは自分の罪のうちに死ぬことになる、わたしは言ったのである。『 <u>わたしはある</u> 』ということ信じないならば、あなたたちは自分の罪のうちに死ぬことになる。」
ヨハネによる福音書	8:28 そこで、イエスは言われた。「あなたたちは、人の子を上げたときに初めて、『 <u>わたしはある</u> 』ということ、また、わたしが、自分勝手には何もせず、ただ、父に教えられたとおりに話していることが分かるだろう。」
ヨハネによる福音書	8:58 イエスは言われた。「はっきりしておく。アブラハムが生まれる前から、『 <u>わたしはある</u> 。』」
ヨハネによる福音書	13:19 事の起こる前に、今、しておく。事が起こったとき、『 <u>わたしはある</u> 』ということ、あなたがたが信じるようになるためである。

Let there be light !

ヨハネによる福音書5：39

あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。
ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。

ヨハネによる福音書5：46

あなたたちは、モーセを信じたのであれば、わたしをも信じたはずだ。
モーセは、わたしについて書いているからである。

Photo:H.Taniguchi

自分の魂の救いにかかわる問題である以上、
人は自分で聖書を探求しなければならない！ ~希望への光P.1890、各時代の争闘下 P.364~

ただ聖書をつまびらかに研究する者だけが世界中を捕らえる欺瞞から救われるのです。
今、我々の大祭司なるキリストが天の至聖所で最後の贖罪の働きをしておられる間に、そのみ言葉を研究し、
我々の義務を果たすようにしましょう。

Bible